

第5回 八頭町自治基本条例（仮称）策定委員会 会議録（概要）

日時：平成21年7月3日（金） 19:00～

場所：八頭町役場 本庁舎 3階 大会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 意見交換

■ 「まちづくり」という、より大きなテーマについて

＝ 前回に引き続いて、例えば、「私が町長だったら、こうする。こんなまちにしたい。」など、まちづくりに関して必要な仕組みや理念（考え方）、また、「町長」・「行政」・「コミュニティ」・「議会」のそれぞれに必要なことなどについて、意見発表・意見交換を行った。

【 意 見 】

≫ 以前は、駅前の商店街なども、もっと活気があった。土曜夜市なども開催されていた。全く以前のようにするには難しいだろうが、今より少しでも活気が出てほしい。

前回、農業の活性化などの意見が出ていたが、農業だけでなく、商業との連携も必要だと思う。やはり、地元の業者や企業を使ってもらいたい。地元を使うような働きかけをするなどの行政支援が足りないと思う。

私は、八頭町の企業として、地域に密着してやっているつもりだ。新しいものを持ってくることもいいが、今現在、八頭町内で頑張っている人を応援し、後押ししてもらいたい。

<委員長>

＝ 民間企業としては、まず、競争力を上げるために「良いものをつくる」などの企業努力が必要だと思うが、支援に関することを条文として盛り込むことはできる。

≫ 高齢者の生きがいを生むためには、新たな施設が必要だと思う。グラウンドゴルフ場も町内に何箇所かはあるが、数が少ないと思うし、使用料も高齢者は無料にしてもらいたい。

私も農業を営んでいるが、専業農家でやっていく場合、儲けるためにはまとまった土地が必要だし、集約的に行うなど、ある程度の規模がいると思う。農業だけでは食べていけないので、勤めに出て兼業農家になってしまい、なかなか農業が発展しないのではないか。

また、地元のもの食べる地産地消も重要だと感じる。荒廃地を減らす国の施策もあるようで、山林や耕作地を保全することで、農村を維持していくことも大事だと思う。

≫ 公共交通について、若桜鉄道が話題となっており、地域のために必要なものだと思う。クローバーバスも日曜日が運休になっていて、利用しづらい部分があるが、人口が少なくなっていく状況のなかでも、やはり必要な公共交通機関だと思う。町営化するなどして維持してもらいたい。また、バス停でなくても手を挙げれば乗れるような仕組み、フリー乗車も作ってほしい。

八頭町内の小学校の児童数が減っているなかで、全国的には、廃校というか、学校を活用した子供と高齢者とがふれ合う事業を行っていると聞いた。子供にとっても良いことだし、高齢者の生きがいにもなると思う。

また、学校は、やはり歩いて通えるのが一番いいと思う。

育児については、子供を産みたいが、やはり、仕事に復帰できるかどうか不安を感じる部分がある。誰かに預けるのではなく、自分で育てて、なおかつ、仕事にきちんと復帰できる体制があればいいと思う。

障がい者と町民とがふれ合う機会が少ないように感じる。障がい者は一人では外に出るのが難しいし、家族も心配になる。パレアナや船岡作業所などの障がい者支援施設をもっと支援するべきだと思う。

環境問題は重要な課題なので、太陽光発電などをもっと普及させるために、助成制度の充実を図ってほしい。

<委員長>

= 高齢化率が高い地域は、特にバス運行などの公共交通機関の存在が重要になってくる。民間事業者として対応できない部分については、行政が対応することも必要だと思う。

≫ 町民同士のふれ合いについて、子供は子供同士、高齢者は高齢者同士、障がい者は障がい者同士という縦割りになっている気がする。垣根を取り払って、お互いができることをし合い、支えあいながら、交流すれば良いと思う。

また、私は、保育の充実ではなく、逆に自分で育てることの方が大切だと思う。それには、仕事に復帰しやすい環境など、雇用体制の整備が重要だと思う。

≫ 自分で育てたいと思っても、社会や世間が「家に居る人は怠けている」と思っている。そう考える人は、「外に出て働く人は忙しい」と考えている。だから、自分が育てたくてもできない状況にあると思う。

子供が2、3歳になり、祖父母に預けることができない人は、どこか別のところに預けて仕事に行かなければいけない。そういう時に、保育所とは別に、デイサービスを行っている介護施設などで預かってもらえるようなことができれば良いと思う。高齢者との交流も図れるのではないかな。

<委員長>

= 社会全体の仕事と子育てに対する意識を変えて、体制を整えることが必要だと思う。

≫ 京都では、医療費の軽減措置があると聞いた。そういった、全国でも独自の取り組みをしているまちは、どういった考えを持っているか知りたい。

八頭町はまとまりにくい雰囲気があるように感じる。「よそ」のまちと一緒にのことはしてはいけないと思う。まず行動を起こすことが大切で、変えていく意識をもっと持つべきだと思う。

<委員長>

= 独自の取り組みを行うには、予算規模や発想力など「どれだけ動く力があるか」ということが関係してくる。ただそれは、「大きな都市、小さなまち」ということはあまり関係ないと思う。

≫ 住み良いまちというのは、「住みたい」と思えるかどうかだと思う。そこに住むことに何か特典みたいなものが必要なのではないかな。

≫ 町民自身が、まちの課題に対して無関心なのが一番いけないと思う。ただ、自分達の地域のことを知る機会やまちの情報が不足していると思う。

<委員長>

= 「地域の課題は、地域で取り上げる」というのが原則だが、町全体の課題

として取り上げることも、場合によっては必要だと思う。

≫ この委員会に参加して、納税者としての意識が高くなった。町民としてこの委員会に参加する権利があり、また、同時に町民としての義務も果たしていこうと考えている。

八頭町に必要な施策を考えたときに、私はやはり、夢のあることよりも、ささやかなことでいいと思っている。財政状況を考えればなおさらのことで、これから先、将来のことを考えないといけない。

子供たちにしっかりとした教育を受けさせても、都会の大学に行ってしまう。親がこちらから頑張って仕送りをして、そのまま都会で就職してしまう。結局、雇用の問題が大きいと思う。雇用の場があれば、違ってくるのではないか。八頭町のきれいな空気と水を活かした雇用の場ができれば一番いいと思っている。

用瀬の山の中にある「フォレストリア」という場所に行って感動したことを覚えている。きれいな景色のなかで、おいしいものが食べられるし、電気も通っていてテレビやエアコンもあった。本当に贅沢な空間だと思った。姫路公園もすばらしい自然のなかにある施設なので、もっと設備がしっかりしていれば、観光という部分でもっと人を呼べる施設になると思う。

≫ 環境問題も重要で、これからは循環型システムを取り入れた生き方が大切になると思う。

≫ 将来のことも大切だが、今生きている人の生活の質を上げることも大切。みんなで知恵を出し合って、「八頭町に生まれて良かった」と思えるようなまちにしていきたい。

無駄にお金を使わないために、また、無駄な税金を払わないためにも、町民がもっとまちづくりに関心を持ち、もっと積極的に参加するべきだと思う。ただ、まち全体ということになるとなかなか捉えづらいので、施策各部門での会議等において、意見が出やすくするなどの工夫が必要だと思う。

<委員長>

＝ 「まちづくりにどのくらいのお金が使われているか」を知る機会はあるが、町の全体的なことであるため、自分たちの身近なことに関するお金の使い方については、確かに分かりにくいかもしれない。

- ≫ 農業の話が出ているが、全国的にも大規模経営の方向に向かっており、農業法人化が進んでいると思う。農家同士が共同、協力していくことに対して、行政的な支援が必要だと思う。法人化すれば、当然、経理、営業部門が必要になってくるので、新たな雇用も生まれるのではないかな。
- ≫ 観光については、この辺りでは一年中することがあると思う。八頭町は、フルーツが多くて、フルーツ狩りもりんごや梨など秋の一定期間中続けてできる。夏は海が近くて海水浴ができるし、冬は雪山が近くにあってスキーなどができる。広域的に見れば、遊ぶこと、場所がたくさんあるので、一つのルートとして売り出せばいいと思う。PRが足りない気がする。

鳥取市の「こどもの国」は、子供にとっては、遊ぶ施設がたくさんあるし、安くて、安全でとてもいいところだと思う。八頭町にもそういう施設があればいいと思う。私が住んでいるところは、今、近所の公園でのボール遊びが禁止されている。近隣の家に迷惑が掛かるからだが、だから、わざわざ小学校まで行って遊んでいる。私の住んでいるところだけでなく、八頭町内のどこでもそういう状況があると思う。こんな田舎の八頭町でも、遊ぶところがないという事実があると思う。

<委員長>

＝ 観光に関しては、八頭町だけで行っていくのは難しい部分がある。東部地域など広域的な取組みやPRが必要だと思う。

- ≫ 実は、そういったルートもあるし、パンフレットなども整備してある。ただ、やはりPRは足りないと思う。
- ≫ 私は、「ブータン王国」という国が好きだ。ブータンは「国民総生産」ではなく、「国民総幸福量」を採用していて、経済発展のみではなく、「どうすれば、国民全体が幸せになるか」を考えて、政策を行っている。人が人らしく生きることが一番いいと感じている。

人が生きていくために最低限必要なのは、「衣・食・住」と「医療・福祉・教育」だと思っている。その最低限の部分の充実を図っていくべきだと思う。食の部分で言うと、食べていくためには、農業は決して切り離せないものだし、また、環境問題にも関わっていることなので、やはり重要な部門だと思う。

<委員長>

= 農業が持つ産業的な部分と「生きるために必要なもの」という部分を合わせて、まちのライフスタイルとして確立することで、それがまちづくりにつながらないだろうか。例えば、「朝、畑仕事を必ずする」というようなまちをつくるとか。

≫ 今の時代には、土に触ると「怖い」と思う子供がいる。都会から田舎に移り住んだ人のなかにも、そういう人がいると聞いた。田んぼでは、土だけでなく、オタマジャクシとかカニ、ドジョウなどの生き物に触れることができる。

≫ 3町が合併して八頭町になったが、同じような地域性を持っていることもあって、まちづくりに関して同じような施策や対応をしていると思う。画一的なことでもいいが、地域を活かしたまちづくりを試みるのもいいと思う。例えば、商店街がある区域は商業中心とか、農村部は農業重点地域にするとか。また、自然を守りながらそれを活かすゾーンがあれば、都会的なゾーンを設けるなど、同じまちのなかでも住み分けをしながら、公共交通機関などを活用した誘導、集約システムを作れば、今までとは違ったサービスが提供できるかもしれない。

また、多くの子供たちが部活やクラブ活動をしているが、小学校、中学校、高校とそれぞれやり方が違っているし、同じスポーツでもそれぞれの世代が寸断されていてつながっていない。例えば、あるスポーツを通して活動するNPOみたいな団体があれば、子供から大人までみんなが同じ場で交流することができる。大人が子供を指導することで、技術の向上も図れるし、「地域の子供は、地域で育てる。」という意識も生まれてくるのではないか。

<委員長>

= 農業を大規模で行うことにより、例えば、北海道にあるような「〇〇花畑」といった名所やすばらしい景観が生まれるかもしれない。

また、世代を越えた交流が図れるようなNPO等の活動団体があれば、新しいまちづくりにもつながると思う。

≫ 今年、ひまわりを200本植えてみた。今後、河原インター線ができるが、走っている車から見て、目に留まるような景観があればいいと思っている。まちづくりの小さなきっかけになればと思う。

≫ 人は死ぬと土に帰る。そのことを考えると、「衣・食・住」の話も出たが、

これからの生き方は循環型が重要になってくると思う。

<委員長>

＝ 自治基本条例の前文は、まちの特色を盛り込むパターンが多いが、往々にしてメッセージ性が弱い嫌いがある。何かまちで共有できる「生きるスタンス」といったようなものがあれば、前文に盛り込んで、特色のある条文にすることもできる。

≫ 例えば、町の施設全てにソーラーパネルを設置して、施設で使用する電気を太陽光発電で賄うような方法はどうか。

<委員長>

＝ 費用が掛かることであるので、今すぐを実現するものではないかもしれないが、エコをスローガンにしてまちづくりを進めていくことはいいと思う。

≫ 「ISO」など、取り組むことによって対外的にアピールできるようなことは、企業も取り組みやすいのではないか。エコ表彰などを行い、取り組んだ企業のイメージアップにつながるような事業をすることで、雇用も生まれるのではないか。

<委員長>

＝ まちの企業全体が取り組めば、まちとしても大きなPR効果が出るのではないか。

生きるために最低限必要なものは「衣・食・住」、「医療・福祉・教育」という話が出たが、「誰もが住みたいまち」にするためには、他に何が必要か。

≫ 特に若い人にとっては、田舎であっても情報が必要ではないか。

≫ 住民同士のネットワークや支え合いも必要。

≫ 安心感や人と人とのつながりが必要。

≫ 八頭町は田舎だし、決して便利なところとは言えない。時代に逆行しているとも言えるが、逆にその不便さを売りにして、自信を持つべきだと感じる。「昔ながらの頑固さ」といったようなものもアピールしていくべきだと思う。

【まとめ】

<委員長>

＝ 「育児」や「仕事・雇用」、「農業支援」など、今回もいろいろな意見が出

た。今までの意見交換のなかで、いろいろなキーワードが出たので、それを前文に盛り込めれば良いと考えている。

4. 協 議

■ 条例素々案について

＝ 職員プロジェクトチームが検討し、作成した条例素々案をたたき台として提示した。

また、条例素々案構造図、八頭町関係例規集を参考資料として配布した。

※ 第1回目、第2回目と自治基本条例に関する学習を行い、また、第3回目から今回（第5回目）まではまちづくりについての意見交換を行ってきた。

次回は、今回提示した条例素々案について、今まで行った学習、意見交換を通して感じたことや疑問点など、また、盛り込みたい条文について、協議を行う。

5. 閉 会

以 上。